

魅力を活かし、みんなのでつくる 元気なあしや

新年あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、平成31年の新春を健やかに迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。早いもので、町長に再任してから4年目の正月となりました。新年を迎えるに際し、さらなる芦屋町の振興のため、後期基本計画や地方創生に取り組み、マニフェストでお約束したこととともに、これらにまい進して参ります。

1 元気なあしや創造戦略

芦屋港活性化の取り組みでは、29年度より検討を進めている「芦屋港活性化基本計画」を本年3月までに取りまとめ、町議会の芦屋港湾活性化特別委員会とともに、この基本計画をもとに、観光レジャー要素をもった芦屋港への実現にむけ、港湾管理者の福岡県や関係機関と協議を進めていきます。

芦屋釜の里では、これまでに表千家や裏千家などへの釜の寄贈、表千家同門会との提携館締結、九州国立博物館や福岡三越での釜展示など、芦屋釜復興の周知活動を行ってきました。これらの取り組みが実を結び、本年5月に行われる表千家同門会第78回全国大会の茶席会場のひとつに芦屋釜の里が選

ばれました。これは、開園以来芦屋釜の復興と茶の湯の振興に努めてきた成果です。これからも引き続き芦屋釜の全国的周知や芦屋鑄物の製作体制の確立を進めていきます。

2 地方創生で活力アップ戦略

芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略による地方創生の取り組みでは、現在の取り組みについて事業評価を行い、課題解決に向けて各種事業を推進していきます。

また、国における次期総合戦略の策定を見据えた新たな課題への対応や運用改善策の検討が行われているため、この動きにも注視しながら地方創生の取り組みを推進していきます。

広域連携では、北九州市との連携中

枢都市圏の将来像や連携協約に基づき具体的な取り組みをまとめた「北九州市圏域連携中核都市圏ビジョン」の第3次改定が来年度に予定されており、今後も、住民サービスの向上を目指した連携事業を推進していきます。

大学との連携では、九州女子大学と九州女子短期大学に続き、新たに九州共立大学との包括的地域連携協定を締結しました。今後も大学の知見やノウハウ、学生の若いパワーをいかして新たな取り組みを進めていきます。

3 人口減・歯止め戦略

町独自の取り組みでは、定住促進奨励金や中古住宅解体後の新築住宅建築補助金制度により定住促進を図ります。また、出産祝金や子ども医療費助成制度など子

育て世帯に対する支援を行い、子育てのしやすい環境づくりを進めていきます。

空き家対策の一つとして、空き家バンク事業がスタートして3年がたち、現在までに13件の空き家情報をホームページで紹介し、7件が契約済みとなりました。今後も空き家の適正管理や利活用につながる取り組みを推進していきます。

また、老朽危険家屋等解体補助金制度による安全・安心のまちづくりを推進していきます。

4 産業の活性化推進戦略

商工業への取り組みでは、空き店舗活用事業補助金や創業等促進支援事業補助金による支援の要件を見直し、より使いやすい制度として継続していきます。

漁業への取り組みでは柏原漁港の



芦屋町長
波多野茂丸

泊地浚渫工事と物揚場改修工事を引き続き行っています。また、30年度から行っている芦屋港の製水機更新は31年度の完成に向けて整備を進めています。

鱒を地域資源として生かすために行っている、「さわらサミット」は、2年間で約2万人の来場者を集めました。今年もまた、地産地消、地域ブランド化に向けて2月23日団・24日団にボートレース芦屋で「第3回さわらサミット」を行います。

5 みんなで創るあしや戦略

今年で6年目を迎える自治区担当職員制度では、今年度からステップ3として「将来的な地域のあり方の検討、計画の策定」に3自治区が取り組んでいます。また、各地区でさまざまな行事に約100人の職員が参加し、交流を深めました。31年度はさらに多くの自治区でこれらの取り組みが推進されることを期待します。

6 あしや町改革戦略

病院事業では、27年に芦屋中央病院を地方独立行政法人化したことにより、病院の権限による意思決定が可能となり、医師・看護師などの確保や医療環境の変化などに機動的かつ柔軟な対応ができるようになりました。

7 ぐらし満足度アップ戦略

老朽化した芦屋中央病院を30年3月に新築移転しました。MRIの新規導入をはじめとした医療機器の充実、健診センターの開設による健診業務の一元化、緩和ケア病棟の導入による終末期医療の充実を図りました。今後也將来にわたって、町民に安全安心で質の高い医療を提供していきます。

子育て世帯への支援策では、子育て世帯の民間賃貸住宅家賃補助などを行っています。

高齢者福祉では、24時間365日を通して訪問介護・看護を提供する介護保険サービスが30年12月から始まり、安心して暮らせる環境が整ってきました。今後も地域で取り組まれているサロン事業や体操教室の支援、地域における支えあい活動やボランティア活動への支援などを行うことで、地域包括ケアシステムを充実させていきます。

障がい者福祉では、昨年見直した芦屋町障害者計画と芦屋町障害福祉計画に基づいて施策の充実をはかるとともに、必要な人に必要なサービスが適切に提供されるように取り組みます。

公共交通では、町にとって望ましい公共交通の姿を明らかにするための芦屋町地域公共交通網形成計画を策定しました。また、路線の見直しや、新し

いバスの購入、バス停上屋の設置などに取り組みできました。今後も交通体系の充実と利便性向上を図ります。

8 安全・安心の推進戦略

29年に洪水、土砂災害、津波ハザードマップを刷新し、全戸配布しました。30年8月には、航空自衛隊芦屋基地と「津波及び洪水発生時における一時避難施設としての使用に関する覚書」を交わし、津波や洪水災害への備えを強化しました。

災害時に重要な避難所としての機能強化を図るため、本年3月に総合体育館の改修や空調設備の設置を完了します。

また、地域防災力の維持・強化のため、消防団本部の指令車や第3分団のポンプ車に引き続き、3月には第2分団のポンプ車を更新する予定です。

9 教育のまち・あしや戦略

学校教育では芦屋町教育大綱を基本とした教育に併せて、小学校4年生までの35人学級や小中一貫教育・連携事業などの取り組みを進めます。

昨年は全小中学校に電子黒板を設置するとともに、各校に1名のICT支援員を配置しました。教育ICT環境を整備することで、主体的な学びを推進するとともに、情報化社会の進展とグローバル化に対応するため、情報活用能力を底

上げし、子どもたちが将来、安全安心に社会でICTを活用していく力を養っていきます。

施設整備では、小学校における空調設備の整備が完了し、児童が快適な学習活動が行える環境を整えました。中学校においても、引き続き空調設備の整備に取り組み、教育環境の向上に努めます。

10 芦屋ボートレース事業推進戦略

競艇事業では、電話投票の売上向上や、プレミアムG1レディースチャンピオン競走の開催などにより、29年度の芦屋開催レースの総売上が543億円となり、過去最高の売上となりました。

また、経営改善により、22年度から総額30億2千万円を一般会計へ繰り出し、町財政に寄与しています。今年度も6億円を一般会計へ繰り出す計画です。

町民の皆さまへ

町政運営につきましては、常に一歩先を見据え、スピード感を持ち、現場主義を貫き、住民の皆さまと同じ目線で誠心誠意取り組んできたところです。今後も初心を忘れることなく取り組んでまいります。

新しい年が、皆さまの笑顔が輝く、希望に満ちた年となりますことを、心から祈念申し上げます。